



会長 林 裕悟

2026年、山桜会110周年に向けて

いよいよ山桜会は2026年に110周年を迎えます。これは、長い歴史の中で培われてきた母校での素晴らしい教育と、多くの同窓生が母校に寄せてくださった温かい思いがあってこそ成し遂げられたことです。この歴史ある節目を皆様とともに迎える機会を得られることを大変嬉しく思っています。

この記念すべき年を目前に控え、山桜会として様々な企画やイベントなどの記念事業を計画しております。現在も、母校は次世代を育てるため、日々新



追手門学院大学
アカデミックベース竣工式にて

たな挑戦を続けています。山桜会は、110周年記念事業を通じて、母校のさらなる発展に貢献するとともに、卒業生がますます懇親を深めていくことができたらと強く願っています。

メインイベントとして、2026年6月に110周年記念式典を開催し、多くの卒業生が集い、旧友との再会を果たし、思い出を語り合う場を提供したいと考えておりますので、皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

2024年も残すところわずかとなりました。どうぞ良いお年をお迎えください。

そして、2026年に向けて、引き続きともに歩んでまいりましょう。

追手門学院 理事長挨拶



理事長 田口 順一

高い志を持つ大切さ

山桜会会員の皆様こんにちは。追手門学院 理事長の田口です。

昨年7月に理事長に就任してから、早いもので一年が経過しました。この一年間、皆さまの温かいご支援とご協力のおかげで、毎日新しい発見と充実した時間を過ごすことができました。心より感謝申し上げます。さて、9月29日(日)に、小学校で日曜参観が開催されました。同日、国際教育センターの先生方に八束周吉奨励賞の贈呈をさせていただき、卒業生(107期生)の田邊剛士さんの講演会も行われました。田邊さんは学生時代に京都大学の山中教授と一緒にiPS細胞の研究に取り組んでこられたメンバーの一人で、



小学校教育講演会
田邊剛士(小107期)さんと

現在はアメリカのシリコンバレーで起業され、iPS細胞の活用を通じて、医学や美容健康の分野において大きく貢献されておられます。田邊さんは幼い頃から身近な方の死に接する中で、「人が元気で長寿を全うするためには何ができるのか」を真剣に考え、これを研究の原点とされたそうです。その後、素晴らしい先生方との出会いにも恵まれましたが、高い志を持ち続け、日々努力を惜しまなかったことが、今日の成功に繋がったのだと感じ、私自身も大きな感銘を受けました。

八束周吉奨励賞を受賞された小学校の先生方も、子どもたちが世界基準で夢を持つことのできるグローバルリーダーとして育てたいという強い思いを持ち続けたことで、国際教育センターを中心とする国際教育を実現してくれました。

現在、アメリカの大リーグで活躍中の大谷翔平選手も、子供の頃から「二刀流の選手として大リーグで成功する」という明確な志を掲げ、日々の練習に取り組んできたそうです。このように「高い志を持ち、諦めずに努力を重ねること」が人生における素晴らしい結果に結びつくのだと、改めて実感いたしました。



『ハンニバル・バルカ』の名言
We will either find a way, or make one.

道は我々が見つかるか、作るかだ。
彼から講演の最後に教えていただいた
メッセージです。